

海岸漂着物の調査

●種類と重量割合

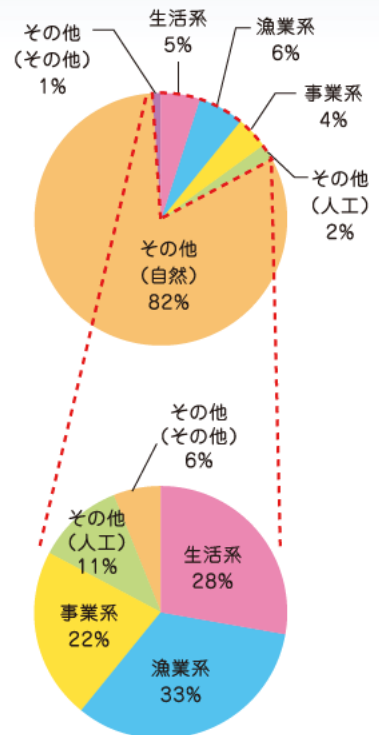
流木など自然系のごみが82%と最も多く、漁業系、生活系、事業系のごみは4～6%でほぼ同じ割合でした。自然系のごみを除いた人工物の割合は、漁業系が33%、生活系が28%、事業系が22%でした。

●発生源と集積場所

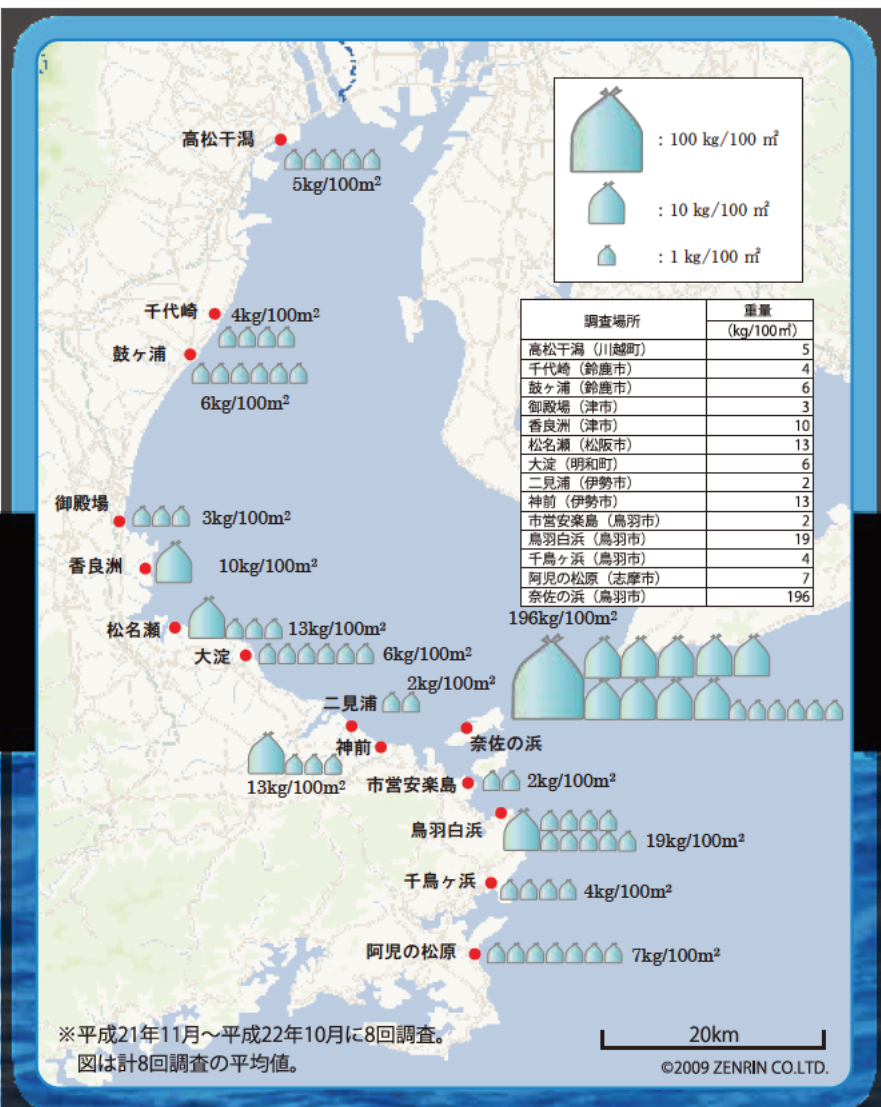
県内の主要な海水浴場等14海岸で回収されたライターをもとに、記載された情報から発生場所を推定したところ、94個のライターのうち三重県のものが42個と最も多く、伊勢湾に面した地域だけでなく、内陸部のもも含まれていました。

また、GPS発信機を搭載したペットボトル18本を県内6河川の河口部から放流したところ、10本が伊勢湾内に漂着し、うち6本が答志島に流れ着きました。

これらのことから、県内の海岸漂着物の多くが陸域を発生源とし、河川を經由して海に流れ込んでいると推定されます。そして、伊勢湾の風向及び海流により、その多くが鳥羽市答志島に漂着する状況が確認されました。



〔人工物のみを100%としたときの内訳〕



※平成21年11月～平成22年10月に8回調査。
図は計8回調査の平均値。

20km
©2009 ZENRIN CO.LTD.

漂着物の分類	
生活系	飲料用プラボトル 食品の包装・容器 生活雑貨 ふた・キャップ 袋類(農業用以外) 飲料缶 くつ・サンダル 苗木ポット 飲料ガラス瓶 おもちゃ類 ライター その他生活系
	発泡スチロールフロート ロープ・ひも うき・フロート・ブイ カキ養殖用ハイク その他漁業系
事業系	木材等 農薬・肥料袋 その他事業系
その他	自然 灌木 流木
	人工 硬質プラスチック破片 発泡スチロール破片 プラスチックシートや袋の破片 ガラスや陶器の破片 金属破片
	その他

注) その他:生活系、漁業系、事業系に分類できない、自然ごみ、プラスチックやガラス、金属等の破片を示す。